

10年ぶりの優勝に笑顔の鳴門クラブチーム



2004年度(第24回)四国クラブ対抗決勝競技

主催/四国ゴルフ連盟 ■会場/新居浜カントリー倶楽部



2004.10.15 第16号

発行 四国ゴルフ連盟
〒790-0921 愛媛県松山市福音寺 55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

四国クラブ対抗決勝 台風下熱戦制す

鳴門、10年ぶり5度目

四国ゴルフ連盟の平成16年度主催競技は、10月21日の四国レディースゴルフ大会を最後にすべて終了した。今年度は一部競技を除いて天候に恵まれず、特に9月末の四国シニア選手権は台風の接近、通過に伴う豪雨で第2ラウンドが中止となった。主催競技の途中中止は第8回四国アマ(昭和63年)以来のこと。

各地に被害が出た。競技開催コースのある新居浜市も土砂崩れや氾濫などが発生。新居浜CCは水浸しとなり、翌日の決勝開催が危ぶまれたが、当日になって雨は

井上(土佐ユトー)が初優勝

四国シニア台風で第2R中止

第24回四国クラブ対抗決勝(8月19日、新居浜カントリー倶楽部)6760ヤード、パー72、参加17チーム136人

決勝競技の前日、台風15号の接近に伴い、四国地方は大雨に見舞わ

第24回四国シニア選手権(9月28日、Kochi黒潮カントリークラブ、6685ヤード、パー72、178人参加)

台風21号接近が報じられる中、初日は天候に恵まれ、黒潮CCと相性のいい井上幸伸選手(土佐ユトーピア)が4アンダーの好スコアで首



優勝した井上選手

位。続いてパーレートの青木邦夫選手(屋島)ら7人がひしめく混戦

れ、各地に被害が出た。競技開催コースのある新居浜市も土砂崩れや氾濫などが発生。新居浜CCは水浸しとなり、翌日の決勝開催が危ぶまれたが、当日になって雨は

竹内良一・鳴門クラブ監督の話

10年ぶりの優勝なので大変うれしい。今年はホームコースが会場40周年なので頑張った。前半、

峠を越し、新居浜CCの懸念の復旧整備で一時スタートを遅らせ開催にこぎつけた。雨は去ったものの時折強風が吹く悪コンディション下、選手達はスコアメイクに苦しみ、終盤まで混線模様となったが、鳴門CCが松山シーサイドを1打差でかわし、10年ぶり5度目の王座を手中にした。

- ①鳴門555 ②松山シーサイド556 ③グリーンフィール562 ④新居浜562 ⑤阿南565 ⑥レオマ高原567 ⑦屋島572 ⑧今治574 ⑨琴平574 ⑩四万575 ⑪松山ロイヤル577 ⑫宇和島579 ⑬土佐ユトーピア582 ⑭坂出584 ⑮志度588 ⑯愛媛590 ⑰高松6002
- 個人の部①尾崎竜二(阿南)73 ②福岡浩二(愛媛) 矢野俊幸(新居浜) 奥山慎一郎(鳴門) 以上74

シニア選手権(⑤金平真一(大洲)74、玉置堪枝(御所)同、三砂広(高南)同、黒川倫行(愛媛)同)

目、ベストスコアの75で回り2位グループの4選手に逆転初優勝した。グランドは初日首位の上野榮三選手(新居浜)が体調不良で途中棄権。山中武広選手(滝の宮)がプレーオフで岡林重吉選手(錦山)を破って初優勝した。グランドのプレーオフは今回で4度目。成績次のとおり。

ミッドの部①呉錫水157 ②真鍋義次(高松)158、岡本文男(錦山)同 ③以上第11回日本ミッド選手権へ 安永利久(松山シーサイド)同、青野章(滝の宮)同

模様となって二日目を迎えた。台風は急に速度を速め四国に上陸。午後から激しい暴風雨が予想され競技委員会は18ホールの消化困難と判断、9ホール競技に変更したが、グリーン上に水が溜る状況となつて競技を中止、初日の成績をもつて本競の終了を決定した。天候不良によるシニア大会中止は、今回が初めて。成績次のとおり。

第11回四国ミッド・グランドシニア選手権(9月21・22日、レオマ高原ゴルフ倶楽部、ミッド6334ヤード、パー72、91人参加、グランド5947ヤード、パー72、62人参加) 初日好天、二日目は小雨程度の天気だったが、レオマ高原の広くてうねる高速グリーンに全選手が苦しみ、パッティングの調子が勝敗を分けた。

ミッドは初日、13位と出遅れた呉錫水選手(土佐ユトーピア)が二日

ベストアマに和田(スカイ) 中四国オープン 第34回中四国オープンゴルフ選手権(9月3・4日、リジーヤスクレストGC、6939ヤード、パー72)

クリーンを閉んで、ホールアウトした選手たちの人垣ができた。選手たちが困っていたのは、四連が6月の四国アマ選手権から導入した成績速報板用スクリーン。この「新兵器」の仕組みは、チェックを終えたスコアカードをパソコンに打ち込むと、専用のプロジェクターが前方のスクリーンに選手名とスコアを成績順に映し出してくれるというもの。

第3回四国レディースゴルフ大会(10月21日、エリエールゴルフクラブ、5557ヤード、パー72、76人参加)

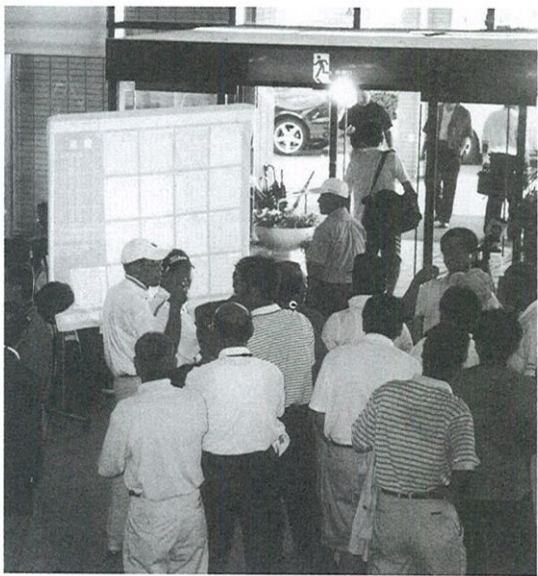
大会前日に四国に上陸、各地にツメ跡を残して台風23号は去ったが、開催コースも豪雨被害を受け、コース整備のためスタート時間を一時間順延。道路不通や自宅浸水などで多数の欠場者が出たが、台風一過の好天のもと、参加選手は元気いっぱい熱戦を展開、ハンディ12の住田喜美子選手(パ協)が初優勝した。成績次のとおり。

①住田喜美子ネット66、ハンディ12、グロス78 ②藤原裕子(スカイ)ベイ66、10、76 ③鈴木晴美(パ協)66、10、76 ④中林和美(同)67、12、79 ⑤喜井恵子(琴平)67、9、76



優勝した住田選手

これは便利成績速報板



速報板に見入る選手たち(新居浜CCでの四国クラブ対抗決勝)

「トップはだれ」「予選カットラインは...」「あ、また順位が下がった」。

9月の四国シニア選手権初日、会場のKochi黒潮CCのスコア集計所近くに据えられた白いス

活躍することだろう。

年男子) 高知2位、香川25位、愛媛39位、徳島44位(成年女子) 愛媛13位、高知18位(少年女子) 香川8位

①徳田宏子(高松グランド)80

国体でも和田優勝 少年男子個人戦

第59回国民体育大会のゴルフ競技(9月12・13)は、埼玉・霞ヶ浦CCなどで開かれ、少年男子個人戦で和田健太郎選手(高知明徳高)が通算3アンダーで優勝したほか、成年男子個人で大宮正幸選手(詫間)が4位タイと健闘した。各県の成績は次のとおり。

手前にグリーンをガードする池のある鹿庭コース16番ロング



おらが倶楽部でござる

其の十七 高松グランドカントリークラブ

高松市内から南東へ車で30分、讃岐百景のひとつ、「嶽山」を囲む丘陵地に、総面積約200万平方メートルの「おらが倶楽部」が広大な姿を伏せています。

全国に多くの秀作を残した名匠・故富沢誠造氏の手になる36ホールは、それぞれに特徴のある二つのコースからなっています。

完全にセパレートされた広くフラットなフェアウェイで伸び伸びが豪快なショットの楽しめる鹿庭コース(6830ヤード、JGAコースレート73・2)、戦略性に富み小ワザが求められる氷上コース(6580ヤード、71・5)。どちらからも遠く小豆島など瀬

戸の多島美や景勝「屋島」さらには県都高松のサンポートの高層ビルなどが眺望でき、プレーとともに讃岐の美しい景観を楽しんでいただけます。

球趣尽きな 36ホール

30年の植樹 豊かな森に

でも、オープンと同時に開催された「日本女子プロゴルフ東西対抗

こと、そして昭和63年の「四国クラブ対抗戦」で、当クラブチームが香川県勢として初優勝したことが走馬灯の如くよみがえってきます。

一方、自然災害も忘れられませんが、昭和62年の台風による大洪水、平成6年の大旱魃で一時は再起不能と思うほどの大打撃を受けました。こうした苦難を乗り越え30周

春は桜やこぶしの花、夏はキョウチクトウやタイサンボク、秋はキンモクセイ、冬はサザンカなど四季の花も大きく育っています。

このたびの度重なる台風上陸によって被害を受けられましたゴルフ倶楽部と関係者の皆様にご心からお見舞いを申し上げます。この上は一日も早い復旧ができませんようお祈りしております。

四国ゴルフ連盟

忘れ得ぬ競技の数々

当クラブは今年、会場30周年を迎えました。数多くの思い出の中

競技に当時、全盛期の樋口久子プロも参加、華麗なプレーを見せられたこと、平成2年の「日本学生選手権」で、あの大丸茂樹プロ、女子では韓国の元代表プロが優勝した

最大目標は環境作り

当クラブは開場時から環境作りを最大の目標とし「植樹」に多くの資金を投入、長い歩経路添いに膨大な樹木を計画的に植え続けてきました。

常緑樹のクス、モチなどは九州から、落葉樹のケヤキ、クスギ、モミジ、イチヨウなどは遠く関東地方から移植しました。

四国ゴルフ連盟の市町村ゴルフ大会支援事業は今年度で三年目を迎え、このところ支援件数が頭打ちの状況になっている。

支援対象は自治体や体協、商工会など公的機関の主催大会に限るが、ゴルフ振興の趣旨に合致するものなら任意団体の申請でも認めている。

お四国随想

手島皓一

阿波が終わり土佐路へ進もう。土佐の八十八ヶ所は「修業の道場」と言う。二十三番薬王寺から国道55を一路南下、牟岐を過ぎ、海部、穴喰まで来ると左手は綺麗な海になる。その先は波乗りで有名な東洋町。いよいよ土佐だ。しかし右手は山が迫り左手は海で一筋の路。海は綺麗だが、歩き道場には単調で長い80キロの道が続く。

肌があり、道や階段が急だ。次の二十五番津照寺は室津の町中の小高い岡の上で、踏幅の狭い

半を寺領としていただけあって立派な本堂である。駐車場の小さな喫茶店では、おいしいコーヒーを

で、車もローギアでやと登れるほどだ。駐車場からも階段を登らねばならない。

先日の新聞報道によると「四十歳以上の中高年の体力は、男女とも五年前に比べて向上している」(文部科学省調べ)そうです。その理由として「日常生活に運動が根付いているからだ」と分析していました。

「味」のクラブ対抗」は都合で休載しました。



修業道場土佐へんろ路

一日目の疲れ果てた頃、ようやく青年大師の巨大な像が見えると室戸岬に着く。中岡慎太郎の像を見ながら山を登り、強風でねじ曲げられた大木の怪奇な姿を見ると土佐最初の二十四番室戸山最御崎寺である。

125段の石段を登るので足下に注意。本尊は延命地藏だが藩主の山内一豊の船が難波しかけたとき現れ、船の舵をとり助けたという伝説で別名を舵取地藏とも言う。

飲ませてくれる。さて、次の二十七番神峰寺(このみねじ)までは、33キロの遙かな道程で奈半利を過ぎ安田町にある。神峰寺の頂上付近の480メートルに位置し、坂は真縦(まっ

石段に蓮の花模様が埋め込まれている。残暑厳しい時だったが、さすがに涼しかった。ここからまた38キロの道、左手には黒潮匂う雄大な太平洋が眺められる。歩き道場には、高知県は広すぎる。

そういえば朝夕にウォーキングに励んだり、フィットネスジムに通う中高年層が多くなりました。中には定年を機に弁当持参で半日をジムで過ごす人もいます。こう

した運動の効用を理解し暮らしの中で実行しているシニアの増加が体力の若返りにつながっているのでしょう。その一方で子供たちの運動能力が低下し続けています。ゴルフは年齢性別を問わず楽しめます。健康づくりに役立つスポーツです。だからこそシニア、ジュニアゴルフをもっと増やさねばならないのです。

「ほつみさき」と読む。すぐ裏に室戸岬灯台があり、雄大な太平洋が眺められる。ここにも弘法大師の「食わずの芋」がある。海に山が迫っているので寺は何れも山

近くには二十六番金剛頂寺がある。山を登り石段を登る。室戸市の大

たて)と言われるほど全行程急坂

たて)と言われるほど全行程急坂

たて)と言われるほど全行程急坂

たて)と言われるほど全行程急坂